

ねん がつ にち
2023年1月29日

ねんかんだい しゅじつ
年間第4主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

マタイによる福音は、山上の説教の冒頭部分に記されたいわゆる「真福八端」を伝えて
います。イエスが指摘する幸福の八つの状態、すなわち「心の貧しい人」、「悲しむ人」、
「柔和な人」、「義に飢え渴く人」、「あわれみ深い人」、「心の清い人」、「平和を実現す
る人」、「義のために迫害される人」の八つのタイプの幸福は、そうだと納得できるもの
もあれば、社会の常識から言えば決してそうとも言えない状態もあります。

それと同時に、よく考えてみるとこの八つの真の幸福を体現されているのは、主イエス
ご自身であることに気がつかさせられます。つまりここに掲げられているのは、イエス
が示す生き方に倣いわたしたちも生きることが、神の定められた幸福の道なのであり、そ
れは人間の常識が考える幸福とは異なっていることを、このイエスのことばが教えて
います。

「心の貧しさ」ということばは、特に日本語では否定的な意味にも取られがちなので困惑
するのですが、聖書のこの箇所が伝えたいのは、霊的な貧しさであると同時に、物質的
な執着からも解放されている、私利私欲にとらわれていない状態を示しています。イ
エスの生きた姿に学ぶならば、人類の救いのための贖いのいけにえとしてご自分をさ
さげられた主ご自身は、まさしく他者のために仕える者となったという意味で、徹底的
に「心の貧しさ」を生きた模範です。わたしたちそれぞれは、どのような生き方をし
ているでしょうか。常に道からそれるわたしたちに、主は御ことばを通じて、すべてを神
に委ねる生き方をするように、繰り返し招いてくださいます。

1月の最後の日曜日は「世界子ども助け合いの日」と定められています。この日は、子ども
たちが使徒職に目覚め、思いやりのある人間に成長することを願って制定されまし
た。まさしくイエスご自身の生きる姿勢に子どもたちが与り、「心の貧しい人」として生
きる道を身につけることを目指している日です。そこで、「子どもたちが自分たちの幸
せだけでなく世界中の子どもたちの幸せを願い、そのために祈り、犠牲や献金を」さ

さげることの大切さを学ぶ日なのです。

げんざい にほん きょうかい かつどう たんとうせきにんしゃ きょうこうちようせんきょうじぎょう にほん せきにんしゃ
現在、日本の教会のこの活動の担当責任者は教皇庁宣教事業の日本における責任者、
とうきょうきょうく もんましんぶさま ひ けんきん ぜんせかい ふくいんせんきょうしやう あつ
東京教区の門間神父様です。この日の献金は、全世界からローマの福音宣教省に集
められ、世界各地の子どもたちのための活動を支援しています。献金も大切ですが、一
ばんたいせつ しりしよく い 生きるのではなく、たしや ささ えることに真の幸福の道が隠さ
れていることを、子どもたちに伝えることであろうと思います。